



水難事故多発！！

沖縄県内では今年7月だけで 発生14件 死者9名

(平成23年7月末現在 発生28件 死者16名)

子どもやお年寄りによる海水浴、シュノーケリング中の死亡事故が多発しています。事故防止のために、体調や天候、同伴者の安否に注意し、万が一に備えライフジャケットを着用しましょう。また事故にあった場合は、必ず医師の診察を受けましょう。

ライフジャケットを着用しよう



ライフジャケットを着けていれば助かった多くの命。

ライフジャケットを着けずに海水浴やシュノーケリング、魚釣りをして事故に遭って亡くなった方が、今年8名。

海や川では何が起こるか分かりません。必ずライフジャケットを着用しましょう。

目を離さない



子どもの事故は、保護者が目を離したちょっとした隙に起きる。

保護者同伴でのレジャーで亡くなった子どもは今年2名。大人でも一人で泳いだり家族や友人が目を離したちょっとした隙に溺れて亡くなった方がたくさんいます。溺れている人は、自分で助けを呼ぶことができません。最悪の結果とならないよう常にお互いの安全を確認しましょう。

万が一の救急法



レジャーは、水難救助員や監視員のいる施設で。

海水浴やシュノーケリング中の事故で監視員や救助員により助けられた人は今年3人。一方亡くなった方はすべて監視員等がいませんでした。OMS Bでは、マリンレジャースタッフに心肺蘇生法等の救急法の講習を行っています。いざという時のために海水浴やシュノーケリングなどのレジャーは、安全な施設を利用して下さい。

すぐ病院へ



「救助したから大丈夫」とは決して思わないで、必ず医師の診察を。

病院に行かず容態が急変し重傷となったケースがあります。人は溺れると窒息し低酸素状態となります。また飲み込んだ海水に含まれる汚物や雑菌、嘔吐物等で肺の中が汚染されている可能性があります。

一度意識が回復したからと言って安心せず、必ず医師の診察を受けましょう。

ご意見・ご要望等は、どしどし事務局までお寄せください。